

Mémoire 2024

第69回 有馬記念 (GI)



暮れの一大一番で復活勝利 レガレイラ

3歳牝馬による勝利は64年ぶり、史上2頭目の快挙だった。

天皇賞(秋)とジャパンCを制してファン投票1位に支持されていたドウデュースが、レース2日前に右前肢跛行のため出走取消。1番人気は菊花賞馬アーバンシック、2番人気に日本ダービー馬ダノンデサイルと、3歳馬が人気の中心を担う形でレースを迎えた。

ゲートが開くと、そのダノンデサイルが1番枠から先頭に立って馬群を引っ張った。2番手に大阪杯を制した3番人気のベラジオオペラ。ペースは遅く、馬群は密集したまま進み、向正面の後半からピッチを上げながら勝負どころを過ぎて直線へと入っていった。

突き放すダノンデサイル。懸命に追うベラジオオペラ。その直後に迫るのは好位から抜け出したレガレイラと、中国の後方から3、4コーナーで勢いよく上昇してきたシャフリヤールだった。馬体を併せて伸びた同じ勝負服の2頭は、ベラジオオペラを交わし、ダノンデサイルを捉え、なおも競り合いながらゴール板を通過。写真判定となった決着は、ハナ差でレガレイラに軍配が上がった。1960年のスターロツチ以来64年ぶりとなる、3歳牝馬の優勝だった。

2歳暮れのホープフルSを制したものの、その後は皐月賞6着、日本ダービー、ローズS、エリザベス女王杯と5着に敗れ続けたレガレイラ。歴史的勝利は1年ぶりの復活劇でもあった。

戸崎圭太騎手は2014年のジェンティルドンナ以来、2度目の有馬記念制覇。「根性がすごかったジェンティルドンナとは違って、すごく女の子らしい優しいタイプですが、勝負どころでは強さを出してくれました」と大接戦を制したパートナーを称えた。

木村哲也調教師は「この1年、レガレイラらしい走りができなかったので(今日は)ホッとしています」と安堵。現役最強馬がリタイアする中、とびきりの世代交代が成し遂げられた有馬記念となった。

有馬記念(GI) (第69回グランプリ)

12/22 中山競馬場 2,500m(芝・右) 晴・良 15頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	レガレイラ	牝3	54	戸崎 圭太	木村 哲也	2:31.8	⑤	⑥⑤⑤③
2	シャフリヤール	牡6	58	C.デムーロ	藤原 英昭	ハナ	⑩	⑩⑨⑤⑤
3	ダノンデサイル	牡3	56	横山 典弘	安田 翔伍	1 1/2	②	①①①①
4	ベラジオオペラ	牡4	58	横山 和生	上村 洋行	1/2	③	②②②②
5	ジャスティンパレス	牡5	58	坂井 瑠星	杉山 晴紀	3/4	④	⑨⑨①⑩

レガレイラ
栄光の蹄跡

8

スワーヴリチャード 109 L/L
レガレイラ
ロカ(ハービンジャー)
2021.4.12 生 安平・ノーザンファーム



牝3
鹿
54

とさき けいた
戸崎 圭太
1980.7.8 生 B型
南サンデーレーシング
木村 哲也(美浦)

2024.11.10 京都
エリザベス女王杯GI
17ト 1人 **5**(108)
54⁺。C.ルメール
芝2200良 2:11.6

2024.9.15 中京
関西テレビ放送賞ローズSGⅡ
15ト 1人 **5**(107)
55⁺。C.ルメール
芝2000稍 2:00.3

2024.5.26 東京
日本ダービーGI
17ト 2人 **5**(109)
55⁺。C.ルメール
芝2400良 2:25.0